

Title	福田博士に答ふ
Sub Title	
Author	高岡, 麗雄
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1915
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.9, No.4 (1915. 4) ,p.449(85)- 450(86)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19150401-0085

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

題の理論上及學問上の部分は既に解決せられたり。唯意思と確信との末だ來らざるのみ。又此大業たる政治家及金融家社會に餘り多くを依頼す可らず。蓋し斯る變革のものたる渠等も亦大多數民人と同じく其注意を逸し易き題目たればなり。

通貨に關する大多數の革新と殆ど凡ての僻論的思辯とは庸劣且危險にして、深き不信の標的たるもの尠ならず。而て此問題の特殊研究を爲さざるの多數人士に對しては正僻辯別し難く智愚分劃し難からんとす。されど金本位制の根蒂を震撼するの一大團圓的變化は吾人を擁して正否を明別するの必要なるを訓ゆるものあるなり。

是の故に現下戰爭、寧ろ戰爭の瀰久するに比例して益々爾がある可き戰爭の有り得可き結果のものたる——予は未だ其確からしきを確信すとは言明し能はず——本位の或國際的協商の途

に世界の重要諸國を張制するにある可きと思ふ金が遂に吾人々類の上に揮へる其專制的支配權より廢棄せられ、一立憲君主の地位に下り立つことにして、若し果して現國民的抗爭の戦後影響の一たること立證せられんには、始めて光輝ある貨幣史の一新章は開かるゝなる可し。人類は今や其各自の希望に依り其資産を支配す可き勢力に於て自治體一の到達に一般の巨歩を運ぶならん。然らんとし吾人は前時代の特徴として過去の史的事件の上に、微妙にして深玄なる且無心にして屢々看せられたる貴金屬の各般勢力を記録せんる欲す。新しき龍は冒險者の暴力より金のフリースを防護す可き新しきコルチスに建設せらるゝなる可し。 A new dragon will have been set up at a new Colchis to guard the Golden Fleece from adventurers

(大正四年三月七日稿)

註(一) 經濟施設に通商政策の改善を策するもの須ら

福田博士に答ふ

高 岡 麗 雄

福田博士は昨年十二月より三回に亘り本誌に於て「歐洲戰亂期に於ける英佛兩國大小農制度に關するアーサーヤングの研究」なる問題の下に種々研究の結果を發表せられたり而して其中本年一月號第四十七頁に於て余が昨年社會政策學會第八回大會に於てなせし講演に論及し「高岡博士が我邦農民の耕地面積の小に過ぐるを論し平均一町四反の面積なる可からずと主張せらるゝもの或は農民一家の生計を標準として立論せらるゝにあらざるか果して然りとすれば予は遽かに其論の全部に賛和するを得ず」と論せり博士がヤングに付さて論ずるに當り余の報告に迄論及せられしは余の感謝する所なり余は常に本邦小農民の耕作面積が餘りに狭少に失する弊を見之を擴張せざる可からざる必要を認め居るを以て昨年の社會政策學會の大會に於ても小農保護策として重きを此點に置きて立論せしは事實なり然りと雖余は博士の説かるゝ如く

註

く此速大なる用意を須要とす、吾人之をフィッシャーに見今ケーンズに同じき用意を發覺するなり。マイシヤルの曾て經濟的施設の改善は漸進的なる性格とすと説き、「自然は飛躍せず」 Natura non facit saltum. とは昔に自然界の現象に限らざる可きを高調す、see Marshall, Principles of Economics, p. 249. 右兩氏の提案に付此用意あり、且予の見所を以てすればケーンズの調節せられたる貨幣本位の遂に必至の勢たるを説くに依りて其意味する所は正にフィッシャーの「補正せられたる弗」の精神に共鳴するものたる可きを思ふ。但し後者が純乎たる金爲替本位の擴張補正にあるに反し、前者が金貨流通に對する態度は此一文に依りては全く解し得可らず。然し乍らケーンズの「印度の通貨及金融」に示せる思想を以て之を類推し得可しと假定せば少くとも金爲替本位制を骨子とするの國際的協商を意味するものたるは蓋し争ふ可らずとす。フィッシャーの學說主張提案に就ては既に高城ドクトルの長短篇數十之を明徴にして疑議を遺せず、希くは本稿を讀むの人復た其未だ粗案なる形式に肉付く樂積の少きを憂へざる可し

(二) アッシュレーは其近著に於て「ハーバート・スペンサーの「人類對國家」に示されたるホッブスの所謂「總ての人に對する凡ての人の争闘」Belium omnium contra omnesの思潮を排するの辯證に萬丈の光虹を揚げたり蓋し此意味に外ならざらん。 see W. J. Ashley, The Economic Organization of England, pp. 190, 191. (大正四年三月七稿)

「農民一家の生計を標準」として立論せず又農民の耕地は「平均一町四反の面積なる可からず」とも述べざりしなり余は農業者及其家族にて農場内に於ける労働をなし他より労働者を雇入れず又自己の勞力に餘分なきものを以て小農となすロッシェルの所論の大體に賛し本邦農家が普通栽培する作物即ち水稻大麥裸麥小麥蕎麥大豆粟蔬菜を標準となし一ヶ年農場經營に要する労働配合の状態等を考へ小農家一戸の内勞働に耐ゆるものを二人半とし此勞力を能く充分に利用せんとするには普通の場合に於ては少くも耕地一町五反を要することを述べ此面積の内水田は八反畑は七反にして畑は全部水田は約四割は二毛作をなしたるものとしての計算なれば若し氣候の關係等よりして二毛作を爲し得ざる他方にては少なくとも二町五反歩を小農の所要面積とすと論じたりしなり福田博士も多少の疑を以て余の所論を批評せられしが如きも氏の説く所と余の論せし所とは上述の如く幾分か其趣きを異にする所あるを以て茲に一言を述べて余の立場を明にす。

金融に及ぼす大戦亂の影響

向井慶松

金融論の大家として知られたるチャールズ・エ・コナン・ト氏は昨年、歐洲に於ける大戦亂が將來投資資本の供給の上に及ぼす影響に付き詳細なる研究の結果を發表せられたり。此の事は多年外國資本に依頼し來りたる我國の經濟界にとりても亦參考に資すべき點少なしとせず。之れ即ち左に其の概要を紹介する所以なり。但し本論は昨年十一月に發表せられたるものなれば、本文中に於ける事實の記事に付ては讀者は其の考にて讀まれんことを望む。

歐洲に於ける大戦亂が投資資本の上に及ぼす影響は吾人の知る限りに於て、或は、貯蓄、鐵道及び器械生産が經濟上に於ける重要な要素

となりし以後に於ける最も重大なるものなる可し。世界に於ける富の蓄積が近代に至り著るしく増加したる結果、今日吾人は苟も社會に利益を興ふる事業にして起す可きものあらば之に要する資金は容易に之を求むるを得るが故に現今の經濟界にありては昔時に於けるが如く資本缺乏の爲めに生産の制限せらるゝが如き思想を有するもの殆んどなきに至れり、バジオット氏の如きは既に千八百七十三年當時尙近世金融機關の發達比較的幼稚なりし時代に於て、其著「ロムバード街」に於て此の事實に論及したり。況んや金融機關の作用圓滑に行はるゝ現時にありては民間の貯蓄は絶えず此の機關を通じて鐵道の建設及新工業に投せらるゝの常にして資本の缺乏に苦しむが如きことあるなし。故に若し一朝此の資金の源泉たる民間の貯蓄枯涸するか、又は其投資方向を變更したる場合には果して如何なる結果を生ずるや、之が判断に苦しむ

次第なり。例之、歐洲資本家が單に合衆國に對する投資を中止したる一事が、かの千八百九十三年の恐慌を惹起したる主たる原因の一たりしを思はば、如何に資金の缺乏が重大なる結果を來すべきや之を推知するに難からざるなり。露國の有名なる經濟學者、ラファロウイツ氏は合衆國に於ける莫大なる外國資本の輸入の影響に付て論じて曰く「合衆國に於ける自治團體、鐵道及び工業會社が歐洲資本家に對して仕拂ふ利子は、新たに輸入する外國資本によりて相殺せられて貿易上に於ける負擔として現はるゝことなきを以て、今日米國が果して幾何の負債を外國に負ふか正確なる數字を知ること困難なり」と

如斯米國が多量の外國資本を輸入せる結果、一朝事變に際して果して如何なる影響を生じたるか。戦亂勃發の一週間前より紐育株式取引所に於ける各種有價證券の相場が俄かに低落を始